令和３年度　全国高校生体験活動顕彰制度　「地域探究プログラム」
ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ合宿 in 国立中央青少年交流の家

take the first step

開 催 要 項

１．趣旨
　地域が抱えている課題を自分ごととして捉え、その解決に向けた体験活動を通して、問題を発見する力と、それを解決していく力を養い、よりよい社会づくりに向けて自ら一歩を踏み出し、歩み続けることのできる人材を育成する。

２．主催　　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立中央青少年交流の家

３．期日　　令和３年７月22日（木）・23日（金）・24日（土）　　０泊３日
　　（希望者は国立中央青少年交流の家に宿泊することもできます。）

４．会場　　国立中央青少年交流の家及び御殿場市周辺

５．対象　　日本在住の高校生

６．募集人数　40名程度

７．持ち物　　□活動しやすい服装　□筆記用具　□雨具（レインウェア）　□昼食　□マスク
【宿泊者】　　□着替え　　□上履き
　　□洗面用具（浴室には石鹸・シャンプー等の備え付けはありません）

８．参加費　　700円（傷害保険料など）
【宿泊者】　　4180円（食費６食分・シーツ洗濯料・傷害保険料など）

９．オリエンテーション合宿　講義等日程
【国立中央青少年交流の家　0泊3日（22単位時間）】

	7月22日	7月23日	7月24日
8:30～8:50	受付		
8:50～9:00	開講式		
9:00～9:50	ガイダンス	講義・演習② 「課題解決の基礎」	講義・演習④ 「行動計画の基礎」
10:00～10:50	講話 「地域づくりの実践」		
11:00～11:50	昼食・休憩	昼食・休憩	
12:00～12:50	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	フィールドワーク② 「地域課題の探究」	昼食・休憩
13:00～13:50			講義・演習④ 「行動計画の基礎」
14:00～14:50		講義・演習③ 「地域課題の探究」	発表②
15:00～15:50	講義・演習① 「地域理解」		
16:00～16:50			実践活動のためのガイダンス
17:00～17:50		発表①	閉講式

※青ー導入（4科目7単位時間）　緑ー探究のプロセス（4科目8単位時間）　赤ー地域課題の取組（3科目7単位時間）

※1単位時間＝50分

【7 月 22 日（木）】

◆ガイダンス〔開会式・アイスブレイク含む〕（9:00～9:50　1 単位時間）

⇒全国高校生体験活動顕彰制度の説明を受けるとともに、オリエンテーション合宿のスケジュールを確認する。

◆講話「地域づくりの実践」（10:00～10:50　1 単位時間）

⇒地域づくりを実践している講師の講話を聴くことにより、地域への関心を高め、よりよい地域づくりを実践していくための意欲を高める。

◆フィールドワーク①「地域の魅力を発見」（12:00～14:50　3 単位時間）

⇒地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見する。

◆講義・演習①「地域理解」（15:00～16:50　2 単位時間）

⇒グループ協議において、フィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深める。

【7 月 23 日（金）】

◆講義・演習②「課題解決の基礎」（9:00～10:50　2 単位時間）

⇒フィールドワーク①において参加者一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイディアによる仮説（解決策）を立て、グループ全員で共有する。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討する。

◆フィールドワーク②「地域課題の探究」（12:00～13:50　2 単位時間）

⇒講義・演習②で立てたグループ内一人一人の仮説をグループで検証するため、フィールドワーク先へのインタビュー等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動（解決策）を探ったりするための取組を行う。

◆講義・演習③「地域課題の探究」（14:00～16:50　3 単位時間）

⇒フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして 1 番良いと思う解決策を思索し、発表①（グループ発表）の準備を行う。

◆発表①〔グループ発表〕（17:00～17:50　1 単位時間）

⇒講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行う。

【7 月 24 日（土）】

◆講義・演習④「行動計画の基礎」（9:00～13:50　4 単位時間　※途中昼食休憩含む）

⇒オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成するとともに、発表②（個人発表）の準備を行う。

◆発表②〔個人発表〕（14:00～15:50　2 単位時間）

⇒個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有する。

◆実践活動のためのガイダンス（16:00～16:50　1 単位時間）

⇒実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解する。

10. フィールドワーク　コース概要

A　御殿場市コース①

御殿場市は富士山のふもとにあり、また昔から交通の要衝の地として発展してきた。富士山登山道が開かれ、高速道路が開通してからは、工業化・観光地化が進み、緑豊かな高原都市として栄えてきた。しかし、その一方で幾つかの課題も抱えている。遊休荒廃地の拡大も、その一つである。フィールドワークを通して、地域の課題とその改善に向けた取組を探究する。

B　御殿場市コース②

明治時代以降、静岡県は日本一の茶処として、日本の茶業をリードしてきた。御殿場市でも、冷涼な気候を生かし、茶業が盛んに行われ、お茶は地域の人々の生活にも深く関わってきた。近年、国際化や人口増加に伴い、世界のお茶消費量はますます増加している。しかし一方で、茶業の担い手不足や消費トレンドの変化への対応など課題も多い。フィールドワークを通して、御殿場市が抱えている魅力と課題を発見し、課題解決を探究する。

C　御殿場市・小山町コース

2012 年の『障害者総合支援法』などの法整備、さらには 2014 年の『国連・障害者権利条約』の締結国加入などにより、我が国の障害福祉に係わる公費も増え、環境も整いつつある。しかしその一方で、現在も障がい者工賃は非常に低く、自立への見通しが立っていない。フィールドワークを通して、障害福祉を変えることで、現代社会が抱える課題が魅力に変わるその取組を探究する。

D　裾野市コース

裾野市は豊かな自然と製造業をはじめとした産業が調和した都市として発展してきた。発展に伴う就業構造の変化や技術（産業）の革新は、暮らしに豊かさと変化をもたらした。一方で、新たな課題も生まれている。近年、全国的な問題となっている放置竹林の増加もその一つである。フィールドワークを通して、地域課題の見方を変えることで、地域の新たな魅力を生み出す取組を探究する。

講師紹介

麻生　じゅんな　氏（MUSE、HINAP 初代代表）【講話（22 日）担当】
2015 年に沼津市を盛り上げることを目指して発足した高校生によるまちづくりイベント『HINAP』を企画し、初代代表を務めた。高校卒業し、県外へ進学した後も団体を支える活動を継続して行ってきた。2019 年に地元に戻ってからも、地域活性化のための活動を模索し、現在も精力的に活動している。

勝亦　健太　氏（チーム FRF 代表）【ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ①（22 日）・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ②（23 日）担当】
遊休荒廃地が増え続けることで起こる景観劣化や害虫の発生源増加などの現状を改善するために、『チーム FRF』を結成し、その代表を務める。FRF（農地管理継承資金調達）は地域独自の特産物を育て、魅力的な農産加工品の開発を行うことで、遊休荒廃地を農地として活用できるようにし、景観美化、地域経済の活性化、生活環境の整備、雇用の増加など、持続可能な社会づくりを目指して取り組んでいる。

荒井　仁　氏（有限会社荒井友吉商店）【ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ①（22 日）・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ②（23 日）担当】
1888 年創業の荒井園をはじめ、茶業に関わる幾つもの業務を扱っている。近年では伝統的な高品質茶の生産だけでなく、紅茶や半醗酵茶の製造、スイーツを扱う飲食業態の店舗開店、観光客向けの商品開発など新しい取組を行っている。一方で、静岡県茶手揉保存会や御厨おもてなし倶楽部、エコハウス御殿場などの理事を兼任し、茶業の発展と地域活性化のために、様々な活動を実践している。

岡田　美幸　氏（株式会社ノースゲイト 副社長）【ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ①（22 日）・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ②（23 日）担当】
引きこもりを対象に、生活と学びと就労を総合的に支援する場所をつくることを目指し、『株式会社ノースゲイト』を設立し、その副社長を務める。現在は自治体や企業との連携を押し進め、引きこもりを自活に導く仕組みの構築に奔走する傍ら、障がい者の自立にむけて、国境を越えた『御殿場支え愛プロジェクト』を進め、自立社会の実現に向けて活動している。

高橋　頼太　氏（社会福祉法人 婦人の園 理事長）【ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ①（22 日）・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ②（23 日）担当】
障がいのある人々とともに活動することを通して、障がいの有無に関係なくそれぞれの可能性を探求することの楽しさを知り、以降彼らが地域から必要とされることを目指して活動している。「『福祉』とは何か」を探究することを楽しんでいる。また、御殿場青年会議所の理事長も務め、「地域のためにできること」を常に考え、様々なことにチャレンジしている。

宮坂　里司　氏（NPO 法人みらい建設部 事務局）【ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ①（22 日）・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ②（23 日）担当】
2014 年に会議ファシリテーションを学んだ有志によって設立され、2017 年にＮＰＯ法人化した『みらい建設部』の事務局を現在まで務めている。各種団体や行政などからの依頼を受け、参加者の主体性を引き出す楽しい会議の技術を提供している。また、放置竹林の整備や遊休農地の活用を行い、地域の特産品を開発するなど、持続可能な環境保全活動にも取り組んでいる。

11. 申込方法

【申込期間】　令和 3 年 6 月 21 日（月）～7 月 7 日（水）
（先着順ではありません。応募多数の場合には抽選とさせていただきます。）
【申込方法】　右記 QR コードからお申込みください。

申込フォーム

当事業は、「教育事業編：新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」（当施設ホームページに掲載）に則って運営いたします。必ずご一読いただき、ご理解いただいた上でお申し込みください。

12. その他

（1）詳細な内容は、事業の 1 週間前までにご案内いたします。
（2）本事業で職員等が撮影した写真や映像、制作物、感想文等の著作物を、当機構の広報等に使用する目的で、報告書や刊行物、インターネット（ソーシャルメディアサービスを含む）等に掲載することがあります。また、新聞社、雑誌社等が発行する刊行物に記事・写真を掲載することもあります。
なお、当機構がインターネット上に公開した肖像及び著作物について、本人（又は保護者）から削除依頼を受けた場合は速やかに削除します。ただし、印刷物等については対応できかねますのでご了承ください。
（3）体調不良となった場合は、ご帰宅いただくこともありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
（4）天候や新型コロナウイルス感染拡大の状況により、活動内容が変更または延期等となる場合もございます。予めご承知おきください。

13. 問い合わせ先（ご不明な点については、下記担当までご連絡願います。）

独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立中央青少年交流の家
〒412-0006　静岡県御殿場市中畑 2092-5　　TEL：0550-89-2020　　FAX：0550-89-2025
E-mail：fujinosato-kss@niye.go.jp　　take the first step 担当：市川・藤原・川合

2015 年の国連サミットで、全会一致で採択された 2030 年までの国際目標「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成を目指し、国立中央青少年交流の家は、率先して推進活動に取り組んでいきます。

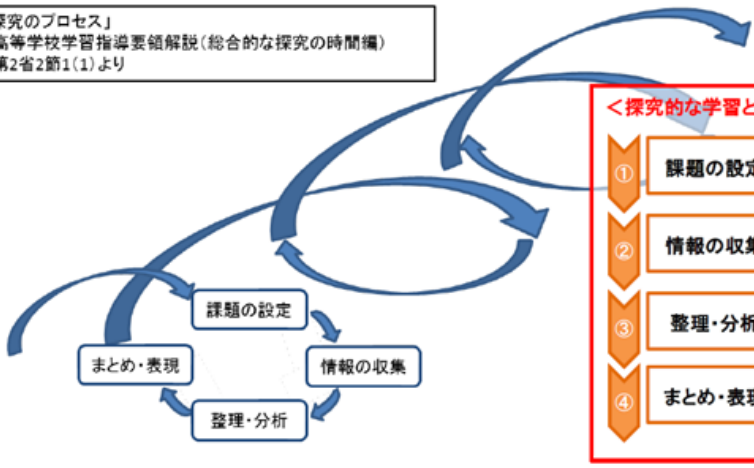
参考資料

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」の概要

地域探究プログラムでは、今回の学習指導要領の改訂に伴って名称の変わった「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を取り入れています。

「探究」における学習の姿（探究の過程の連続）

「探究のプロセス」
高等学校学習指導要領解説（総合的な探究の時間編）
第2省2節1（1）より



＜探究的な学習とするための指導のポイント＞

①	課題の設定	■事前に参加者の発達や興味・関心を適切に把握し、これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたりする工夫をする。
②	情報の収集	■課題意識や設定した課題を基に、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などを行う。
③	整理・分析	■②の学習活動によって収集した情報を整理したり、分析したりして思考する活動へと高めていく。
④	まとめ・表現	■他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動に位置づけ、そこから新たな課題が湧きあがるようにする。

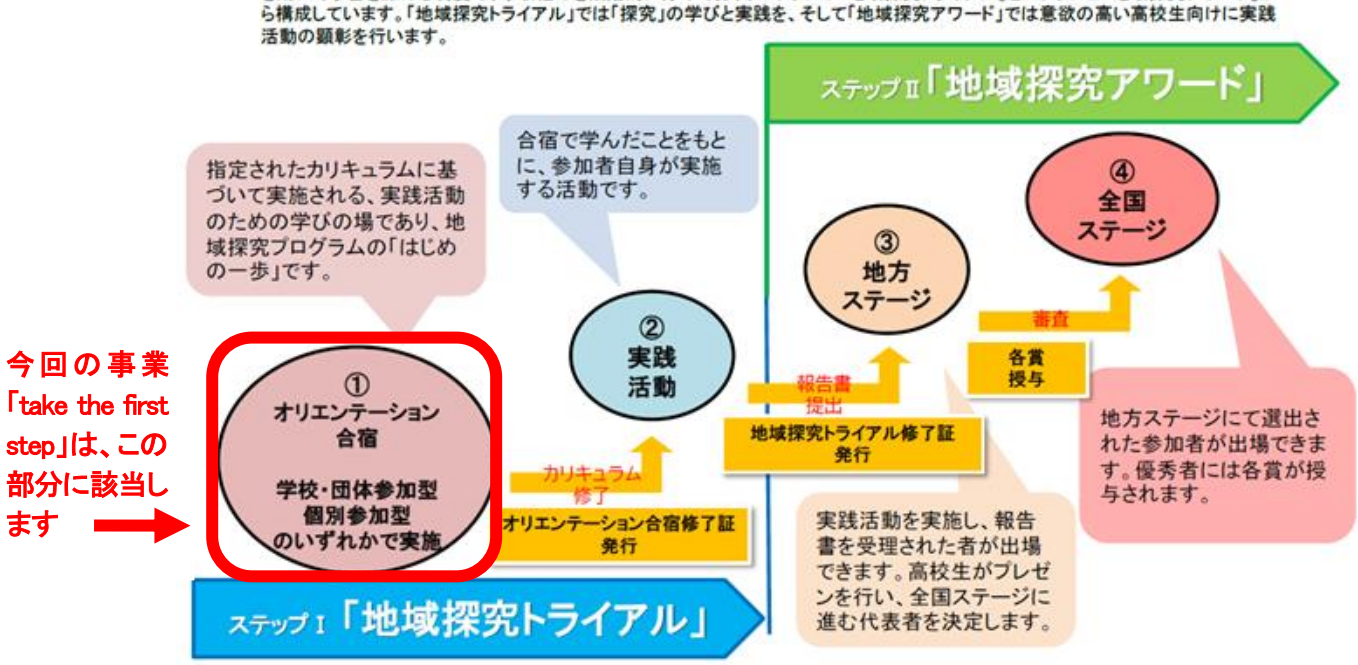
学習指導要領解説　第8章第3節1　より

■　日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■　探究の過程を経由する。
① 課題の設定
② 情報の収集
③ 整理・分析
④ まとめ・表現

■　自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

「地域探究プログラム」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度です。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」とステップⅡ「地域探究アワード」から構成しています。「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そして「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行います。



※定点の評価を設けることで、個々人の状況や進度に応じた評価ができる仕組みとしています。

昨年度の報告書を掲載しています。
ぜひご覧ください。

令和２年度　報告書等